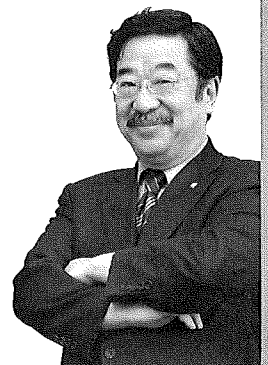
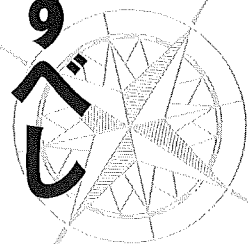


# TPP交渉は慌てず 天下三分の計で対応すべし



中村繁夫

レアメタル専門商社アドバンス・マテリアル・ジャパン代表取締役社長。中堅商社・蝶理でレアメタル(希少金属)の輸入買い付けを30年間担当。2004年に日本初のレアメタル専門商社を設立。著書に「レアメタル・パニック」「レアメタル超入門」等

## 孫

子の言葉に「勝つべからざるは己に在るも、勝つべきは敵に在り。故に善く戦う者は、能く勝つべからざるをなすも、敵をして必ず勝つべからしむること能わず」とある。負けないための準備は自分次第でできても、敵を倒すことができるかは相手の状態と行動で決まる、という意味だ。

今回のTPP(環太平洋経済協定)をどうするかで日本のメデアは大揺れだが、今は何も決めないのがいちばんよいのではないか。今年の日本は「ツキ」に見放され、よかつたことといえば「なでしこジャパンの優勝」ぐらい。こんなときに賛成派は「外圧を利用して日本の制度を変えよう」などと言いつつ、反対派は農業の話ばかりで本質が見えていない。「今年には東日本大震災に見舞われて、日本の景況はそう簡単には

回復しないからレアメタル市況は期待できない」と予想してきた。10月の初めからLME(ロンドン金属取引所)市場は金融問題の影響から明らかにすべてがダウントレンドに入っている。

まさに筆者の予想どおりになったが、レアメタル業界では損切りを決断する業界大手の動きが顕在化してきた。「見切り千両」と言うから、それでよいのだが、あまりにも遅い対応だ。今の状況が続くとレアメタル市況は、いったんどこかで底を打って短期的には自律反発するが、長い視点ではLMEの底が割れたのでダウントレンドが続くだろう。

ギリシャの財政問題はイタリア、スペインにも飛び火してきた。予断を許さない状況が続く中、金融商品もLME市況も不安が不安を呼び、下げ基調は止められない。今

後、ギリシャがEUにとどまるなら一時的には商品市況は反発するが、債務問題が解決したわけではないので、やはり長期的に欧州の不況は続くだろう。つまり金融問題の影響でLMEは低迷を余儀なくされ、レアメタル市場も追随する格好で低迷が続く可能性が高い。一方、米国景気も回復は見られず、格差社会への不平不満が爆発する暗いクリスマスを迎えるだろう。

## 何も結論を出さないうで 先送りする選択もある

TPP交渉については、米国主導の今の流れのままでは、日本はその枠組みに支配される可能性が強く、農業問題だけではなく、日本のメリットは毀損される方向になりそうだ。世界の戦況を鳥瞰すると、中国はアセアン+3(つまり中国と日本と韓国)で米国主導

の環太平洋戦略的経済連携協定に對抗しようとしている。日本はしたたかにどちら側にも愛想を売らず、決断を先延ばしにして、米国と中国の関係を高みの見物で静観するのがベストの選択だ。

つまり、今年のように問題が山積しているときには日本には余裕がない。仮にTPP交渉の準備をしても、相手側もそれ以上に理論武装をしてくる。米国の動きは尻に火がついていて、説得するのは土台無理だ。つまり、日本は確実にできることからやっていくしかない。また今だからこそ、やるべきことをキッチリやっておけば、付け入られるすきは生まれない。日本の経済運営の守りの形を作ったうえで三国志の「天下三分の計」で対応すれば、いずれ相手側のすきを突くことができるだろう。今は動かないことが肝要だ。